

令和7年度 調布市立富士見台小学校 学校評価報告書（学校長 小俣弘子）

学校の教育目標

- ㊦ 深く考える子（知識や技能を身に付け、それらを活用し、問題の解決に向けて追究することができる児童）
- ㊧ 自他を愛する子（自他を尊重し、認め合いながら協力して行動することができる児童）
- ㊨ 自ら鍛える子（自分のめあてを自覚して、工夫しながら粘り強く取り組むことができる児童）

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

子ども、一人一人を大切にできる学校

- 1 自分の可能性を伸ばすことができる学校
- 2 安心・安全な環境の中で楽しい生活を築くことができる学校
- 3 地域とともにある学校
- 4 信頼される学校

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
自己評価	(1) 具体的な取組 ①自他ともに大切にできる児童を育成するために、人権尊重の精神に基づき、多様性を認める授業や活動を実践（12月の人権週間）し、誰に対しても相手を大切にしたいをもち、あいさつなどの言葉遣いや行動（年間）に表すことができるようにする。 ②「学習&生活のルール」「タブレットルール」を全校で共有し、規律の定着を図ることで安心できる生活環境を整える。また、いじめに関する授業の実施及び研修、「こころの健康観察」等のアンケートを通して、いじめのない安心した環境を作っていく。	(1) 具体的な取組 ① 自ら課題をもち、主体的、対話的に考え、問題解決できる児童を育成する。教員は、授業改善を積極的に行う。【タブレット端末の利活用、ユニバーサルデザインの視点（ハンドサイン等）、少人数指導、教科担任制等】 ② 年間2回の読書月間と毎週木曜日の読書タイムを中心に読書活動を推進し、言語感覚を養い、豊かな言葉の獲得を目指す。	(1) 具体的な取組 ①安全面（食・災害・交通・生活等）において、児童には、正しい知識を身に付けさせるとともに、教職員全員の危機管理意識を高度に保つ。安全教育を通じて自ら身を守る行動ができる児童を育成する。 ②体力向上を図る取組（一校一取組、チョコプラ1）や外遊びの推進、運動会を工夫して実践し、運動の楽しさを味わわせる。また、体力テストを通じて課題を見つけ、改善に向けて取り組むようにする。
	(2) 成果（数値目標に対して） ①学校評価アンケートにおける肯定的評価 ・「自他を愛する」（児童）に関する項目 目標90%以上 結果 89.5% ・「自分はよく挨拶をしている」（児童）で、目標85%以上 結果 90.4%	(2) 成果（数値目標に対して） ①学校評価アンケートにおける肯定的評価 ・「学力定着 分かった できた」（児童・保護者）目標88%以上 結果児童90.1%・保護者88.5% ・「教科担任制の効果」（児童）目標85%以上 結果 児童75.3%保護者83.7% ・「ICT機器の活用」児童の目標95% 結果93.3%	(2) 成果（数値目標に対して） ①・児童のけがや食物アレルギー事故及びヒヤリハットに気を付けて、対応できた。 ・学校評価アンケート（児童・保護者・教員）「安全・安心」の項目 目標95%以上 結果 児童94.5% 保護者95.2%
	②学校評価アンケート(児童)において ・「基本的な生活習慣」に関する項目 目標85%以上 結果87.3% ・「学校は楽しい」の項目 目標93.1%以上 結果93.9% ・「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」で目標100% 結果95.4%（6年生 全国学力調査・質問紙）	②学校評価アンケート（児童・保護者）において、「読書活動」（児童） 目標85%以上 結果児童 84.1% 保護者88.5%	②学校評価アンケート(児童・保護者)において、健康教育の項目への肯定的な回答 目標90%以上 結果 児童90.4% 保護者91.6%
学校運営協議会評価	・挨拶は、相手を大切にしたいという行動として継続して取り組んできた成果である。校内では、よくできているが、地域で会った時にも進んで挨拶できるようになるとよいと思う。 ・基本的な生活習慣において、学校のルールなどよく守れている。しかし、登校の見守りをしていない児童を見かける。「自分の命は自分で守る」という安全教育のテーマを家庭にも浸透させていきたい。	・教科担任制については、1年目であったので、児童の肯定的評価が目標に届いていないが、専門的に学ぶよい取組だと感じているので継続してもらいたい。 ・読書の充実として、家庭でも取り組んでほしい。毎年、地域の方（声優）による読み聞かせを保護者の方にも参観してもらい読書の楽しさを味わってもらいたい。C・S主導で呼びかけていく。	・日常的に運動できる環境を引き続き行ってもらいたい。夏の時期には、体育館の使用も割り振っているため、よいと感じた。今後も、体力向上についてできることを取り組んでもらいたい。 ・安全教育の研究では、教職員が熱心に研究をしていて成果が出ていた。児童には、自ら安全に過ごすことをこれからも続けてほしい。C・Sでも、親子自転車教室を企画し、家庭での安全教育の意識を高めていきたい。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 自己肯定感の向上	5 特別支援教育	6 地域とともにある学校
自己評価	(1) 具体的な取組 ① 自己肯定感や自己有用感を高めるようにする。協働的な学び（自分の考えをもち認め合い高め合う中で学習を深める）の充実を図る。 ②周りの大人が、一人一人の児童のよさを見つけ、伸ばす声掛け、支援を行っていく。また、学校、学年、学級で児童間で認め合う活動を取り入れる。	(1) 具体的な取組 ①計画に沿った特別支援学級児童と通常の学級児童との交流・共同学習を進め、多様性尊重への理解促進を図る。 ②特別支援教室や個別指導等での学習が、在籍学級での指導・支援に活かされるよう、専門員やコーディネーターを窓口として円滑な連携が図られるようにする。また個別最適化された支援や環境を提供できるよう相談体制の充実も図る。	(1) 具体的な取組 ①「コミュニティ・スクール」の導入とともに「地域学校協働本部」の活動を更に充実させ、「放課後学習教室」や「漢字検定」、外部人材の活用等の取組を児童の安心感や学習意欲向上につなげていく。 ②学校だよりやホームページ、すぐる、クラスルーム、保護者会等を通じて学校情報を共有し、共に同じ方向を向いて児童を育てる意識を高める。

	(2) 成果（数値目標に対して）	評価	(2) 成果（数値目標に対して）	評価	(2) 成果（数値目標に対して）	評価
	①学校評価アンケート（児童・保護者）において、「思ったり考えたりしたことを話し合っている」 目標 85%以上 結果 83.3%	B	①・かしわ学級との交流機会を各学年で位置付けることができた。 ・人権週間等において、命を大切に授業を行うことができた。教職員には、人権意識チェックを月末に行うことができた。	B	①学校評価アンケートにおいて、「地域とともにある学校づくり」（児童・保護者） 目標 80%以上 結果児童 91.7% 保護者 85.3% 保護者の「分からない」は、減少した。	A
	②学校評価アンケート（児童）において ・「自分にはよいところがある」 目標 83%以上。 児童 78.6% 高学年において、「分からない」が多い。	C	②学校評価アンケート（児童・保護者）において、「相談体制」に関する項目 目標児童 90%以上、保護者 80%以上 結果児童 74% 保護者 87.3%	C	②学校評価アンケート（保護者）において ・「情報発信」に関する項目 目標 95%以上 97.6%	A
学校運営協議会評価	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体が、児童の頑張りを認める、励ます姿勢はできていると感じている。 授業や学習発表会においても、児童が堂々と発表する姿がみられた。 児童の発達段階に応じた自己肯定感の育て方を工夫していく必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> かしわ学級との交流だけでなく、かしわ学級からの招待で太鼓と一緒に体験したり、低学年には、運動と一緒に楽しんだり毎年取り組んでいることが理解につながっていると思う。 相談体制について、児童の結果が目標を下回っている。学校にいる大人に、相談しやすい体制の工夫を図っていただきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ・スクール 1 年目として、手探りではあったが、児童の実態や課題を捉え話し合ってきた。また、熟議を行ったことは、教員と地域の連携を図ることができた。今後は、保護者の方にも率先して参加できるような熟議にできるようにしていきたい。家庭・地域・学校が同じ方向で指導していくことが大事だと考える。 	

人材育成・組織運営	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 主幹教諭をリーダーとして主任教諭の能力を生かした OJT の充実（月 1 回）を図る。（若手教員の育成、授業力の向上） →OJT では、主任教諭の専門性を生かした研修会を行うことができた。特に道徳の授業の進め方について、学ぶことができ、自分の授業に生かすことができたことは成果である。 調布市教育委員会の研究推進校として「安全教育」について組織的に研究を積み重ね、授業力と組織力の向上を目指す。 →担任が行う授業では、一人一人が指導案を考え授業実践を積み重ねることで授業力向上を図ることができた。また、避難訓練や安全指導等で、組織的に取り組むことで充実した指導を行うことができたことも、成果である。今後も継続・発展していくことが課題である。 組織の一員として、担当の分掌に責任をもち、前年度踏襲にとどまらず、校務改善に向けて改善案を提案する。（自己申告時目標設定） →起案時には、どこを改善しているのか明記し、改善意識を高めるようにした。「児童のために」を一番に考え、提案するようできた。 教員が笑顔で元気に児童の教育に邁進できるように、ライフワークバランスを推進する。（在校時間の管理 月平均 45 時間以下 80%以上） →教職員全体が、自分の役割を自覚し、協力的に業務を行うことができた。また、教職員間で協力体制や高め合う意識もあることが成果である。勤務時間外の在校時間は目標を達成しているが、数人の教員が遅くなる傾向があるので、業務軽減を行うなど対応してきた。
学校運営協議会評価	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業や、研究協議会に参加させてもらったが、教員が自分の意見を出し合い活発に話し合っていたことがとてもよいと感じた。教員が、授業を学ぼうとする姿勢が素晴らしい。授業のよく考えられていた。 ステップルーム「あおぞら」の見守りを行ってきたが、毎日、先生方の苦労や頑張りがよく分かった。 研究発表会を行うまでの計画や準備は大変だったと思う。このようにできたことは、校長のリーダーシップと教職員の協力体制があったからこそだと感じている。今後も、元気に、子供たちのために、指導・支援を行ってほしい。

中期的な経営目標の達成状況	
1	<p>自他共に一人一人を価値ある存在として尊重し、いじめや不安がない安心して過ごすことができる環境づくりをする。</p> <p>→「あいさつは相手を大切に基本行動である」という指導と、日常的な行動を大人が示し、定着してきたことが成果である。</p> <p>安心して過ごせる環境づくりとして、発達支持的生徒指導を基盤として、自己存在感、自己有用感を感じられるような働きかけを行ってきた。また、「いじめはどんな理由があってもやってはけない」という意味理解や自分の行動を振り返ることを継続して行ってきた。未然防止を第一とし、早期発見、早期対応を担当だけでなく学年等、複数で対応できていることも成果である。今後は、さらに丁寧な聞き取り、保護者対応を行っていくことが課題である。</p>
2	<p>主体的に対話的な学びを通して自ら問題を解決し、自分の可能性を伸ばしていく児童を育成する。（自己肯定感の向上）</p> <p>→協動的な学びと個別最適な学びを取り入れ主体的、対話的な深い学びの充実に向けて取り組んできた。タブレット端末の活用も定着し、全教員が効果的に活用できている。今後は、自分の考えを相手に分かるように伝える力を育成し、話し合い自体が深まる工夫を行っていくことが課題である。</p>
3	<p>健康保持・体力増進に努めるとともに、自分の命を大切にするための安全な生活ができる児童を育成する。</p> <p>→体力向上を目指して、外遊びの推進、ペースランニング、ちよこプラ1、芝生で遊ぼうキャンペーン、暑い時期の体育館の使用など、運動の機会をできるだけ多く取り入れてきたことは成果である。しかし、体力テストにおいて全校の平均を下回る運動（持久力、走力）もあるので、重点的に高めていく必要がある。</p>
4	<p>自分の可能性を伸ばし、自分に自信をもってチャレンジできる児童を育成する。（自己肯定感の向上）</p> <p>→「自分のよさを育てよう。友達のよさを伝えよう。」をキャッチフレーズとして、継続して取り組んできた。高学年の発達段階に応じた自己肯定感を高める取組を具体的に考え、実践していくことが課題である。</p>
5	<p>通常の学級・特別支援学級・特別支援教室等の組織的連携を図りながら、個別最適化した特別支援教育を推進していく。</p> <p>→かしわ学級の児童との交流の機会、にじいろの児童についての担任と巡回教員との連携には重点を置き、継続して行えていることは成果である。</p> <p>個に応じた対応は、特別支援コーディネーターが中心となって SC や SSW、巡回指導につなげたり、外部機関とも連携したりと特別支援の幅を広げることができている。保護者対応は、担任だけでなくコーディネーターなど関係職員が参加し、多面的な面談や提案を行うことができたことも成果である。</p>
6	<p>コミュニティ・スクールの運営を推進する。保護者・地域と連携し、学校情報を共有し共に児童を育てる意識の向上を図る。</p> <p>→コミュニティ・スクール 1 年目として学校運営協議会の会長とよく連携し、できることから始めたことは成果である。特に熟議を通じて教員をよく知ってもらう機会となった。また、これまでの地域学校協働本部の活動をさらに発展させ、行うこともできた。C・Sの活動を知ってもらうためにお便りの発行もできたことは成果である。課題は、C・Sについて保護者への周知・保護者の協力を図っていくことが今後の課題である。</p>
人・組	<p>職層に応じた自身の役割を自覚し、学校経営方針を実現させるための取組を工夫しながら取り組むことができる組織。</p> <p>→今年度は、研究発表会に向けて取り組むことでそれぞれの組織の中の役割に自覚をもち、職層に応じた力を発揮することができた。達成に近づいている。今後は、専科を副担任としての役割を明確にし、働き方改革に向けて取り組んでいく。</p>
次年度の重点課題	
<p>「自己肯定感を高め、自分に自信をもつ」…認め、励まし高め合う環境 主体的に対話的な深い学びに向けての授業実践 「子どもの声」を生かした児童発信、児童主導の活動を重視する。</p> <p>「自分も相手も大切に言葉や行動をする」…あいさつの励行 相手を大切に言葉遣い いじめをしない心の育成</p> <p>「安心・安全な学校づくり」…安心する居場所づくり いつでも相談ができる体制づくり 安全な環境 児童自ら安全に生活できる行動力の育成</p> <p>「地域とともにある学校」…家庭・地域・学校が連携すること、それぞれの役割を行うことで 児童の豊かな心の育成を図る。</p> <p>「体力向上」…運動する楽しさを実感し、自ら身体を動かし、体力高める児童に育成していく。</p>	